



先月、妻方父母の結婚五十周年の金婚式をさせて頂きました。一言に五十年といっても、大変な数字で結婚当初には考えられないような時間だったと思います。

父母は何事にも厳格でありながら人への気遣いとやさしさに溢れていて、創業当時から影ながら常にリフレットの事をずっと応援していただいている。自分にとっても大切な存在です。

会の冒頭に父は、「大変だが事も多々有りましたが、今家族や孫にも囲まれ一番幸せな時です。無我夢中で、あゝという間だった様な気がするが、五十年一緒に歩いてくれた妻に本当に感謝してる」とおっしゃられていました。



五十年間の主婦生活の中では、数々の困難や危機があり、決して楽しい事ばかりではなかったはずですが、これを当たり前のように継続させていられたようですが、本当に大変だったと思います。継続は力なりという言葉が有りますが、一人で行うとはありません。このかほる借の100年間に値するものです。

主婦生活でも、仕事でも、趣味でも、団体活動でも何でもそうだと思います。あきらめてやめてしまう事は簡単ですが、やってみなければわからない。継続してみなければ答えは見えてこない。これと思ったことは、どんな事があったとしても、石にかじりついてでも、続かなければとまってる証にならない。金婚式という金字塔の御祝いは、我々若い世代へのそんな尊いメッセージが込められているのかもしれない。そして、理屈抜きの継続の大変さと素晴らしさを改めて父母から学ばせていただいたような気がします。ありがとうございました。平成二十一年一月吉日 多田良雄